

## ヘブル人への手紙 第12章 11節

「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。」

寒空の下に出された三輪の薔薇。出される前までは比較的暖かい室内で優雅な姿と香りで咲き誇っていた。それが、凍てつく風にさらされることになった。もったいないし、花に申し訳なく、可愛そうとまで思ってしまう。それから一週間以上経過した。室外で自然にさらされ花の寿命が凜として延びている感じがする。寒空も、少しの雨つゆも、肌を刺すような風もなんのそのの感じで澄んだ空気の中、むしろ爽やかな美しさをかもしだしている。もったいない、申し訳ない、可愛そうだと思うところを吹き飛ばして美を見せている。

懲らしめとは言えないが、訓練のときは辛いこともある。いや、懲らしめられることさえある。そのいずれも、愛の懲らしめ、愛の訓練である。愛してくださる主なる神の取り扱いはすべてが良きことに働き、結実する。懲らしめや、訓練を受けても、それらにこころを留めるのではなく、それらを行ってくださる主なる神にこころを向け、そしてすべてをお任せすることだ。御手の働くところに、平安な義の実が結ぶからである。主なる神が実を結んでくださる。

2022年1月25日